



コール ブロッキングの設定

この章では、Cisco Unified Communications Manager Express (Cisco Unified CME) のコール ブロッキング機能について説明します。

このモジュールで紹介する機能情報の入手方法

お使いの Cisco Unified CME のバージョンが、このモジュールで説明されている機能の一部をサポートしていないことがあります。各機能がサポートされているバージョンのリストについては、「[コール ブロッキングの機能情報](#)」(P.704) を参照してください。

内容

- 「[コール ブロッキングについて](#)」(P.685)
- 「[コール ブロッキングの設定方法](#)」(P.687)
- 「[コール ブロッキングの設定例](#)」(P.700)
- 「[次の作業](#)」(P.702)
- 「[その他の参考資料](#)」(P.702)
- 「[コール ブロッキングの機能情報](#)」(P.704)

コール ブロッキングについて

ブロッキング機能を設定するには、次の概念を理解しておく必要があります。

- 「[日付と時刻に基づくコール ブロッキング \(After-Hours トール バー\)](#)」(P.685)
- 「[コール ブロッキングのオーバーライド](#)」(P.686)
- 「[制限クラス](#)」(P.687)

日付と時刻に基づくコール ブロッキング (After-Hours トール バー)

電話機的不正使用を防止するためのコール ブロッキングは、指定された番号パターンとダイヤルされた番号の照合、およびコール ブロッキングに指定された日付または曜日の時刻と時刻の照合によって実装されます。ブロッキングに指定できる番号パターンの数は最大 32 です。

コール ロックキングに定義された期間に、コール ロックキングに指定されたパターンと一致する番号にユーザが発信を試みると、速いビジー信号が約 10 秒間再生されます。その後、コールは終了し、回線はオンフック ステータスに戻ります。

Cisco Unified CME セッション アプリケーションは、現在の after-hours 設定にアクセスし、この設定を、Cisco Unified CME ルータに登録されている電話機によって発信されたコールに適用します。コール ロックキングは、Cisco Unified CME のすべての IP Phone に適用されますが、IP Phone をコール ロックキングから個別に除外できます。

Cisco CME 3.4 以降のバージョンでは、SCCP 電話機に提供され、また SCCP 制御のアナログ電話アダプタ (Cisco ATA) または SCCP 制御の Foreign eXchange Station (FXS) ポートに接続されたアナログ電話機で提供されるのと同じ、時間ベースのコール ロックキング メカニズムが SIP エンドポイントまで拡張されています。

Cisco CME 3.4 以降では、コール ロックキングの設定は、Cisco Unified CME ルータを通過するすべての SCCP、H.323、SIP および POTS コールに適用されます。除外された電話機からのコールを除いて、ルータへのすべての着信コールも after-hours 設定と照合されます。

Cisco Unified CME 4.2(1) より前は、すべてのコール ロックキング機能がシステム内の各電話機でグローバルかつ均一に実装されていました。すべての電話機が時刻、日付、場所、およびその他のコール ロックキング特性に従って同様に制限されます。コール ロックキングは、トランク機能を使用するように設定されている ephone-dn ではサポートされず、またコール ロックキングは第 2 段階トランクダイヤルには適用されませんでした。

Cisco Unified CME 4.2(1) 以降のバージョンでは、各部門の電話機に対してさまざまなコール ロックキング カレンダーとコール ロックキング パターンを設定したり、必要に応じて特定のトランクダイヤルをブロックしたり、テンプレートを作成して該当電話機に適用することにより特定の SCCP IP Phone にコール ロックキングを適用したりできます。

設定については、「[コール ロックキングの設定](#)」(P.687) を参照してください。

コール ロックキングのオーバーライド

after-hours 設定は Cisco Unified CME のすべてのダイヤルピアにグローバルに適用されます。次の 3 つのメカニズムのいずれかを使用すると、電話機でその機能をディセーブルにできます。

- 電話番号：個々の電話番号の内線を設定します。
- 電話機レベル：個々の電話番号の設定に関係なく、Cisco Unified IP Phone に関連付けられたすべての電話番号に例外を設定します。
- ダイヤルピア：特定のダイヤルピアに例外を設定します。

個々の電話機ユーザは、各電話機に割り当てられた Personal Identification Number (PIN) を入力することにより、指定の期間に関連付けられたコール ロックキングをオーバーライドできます。

Cisco Unified IP Phone 7940G や Cisco Unified IP Phone 7960G など、ソフトキーをサポートする IP Phone では、コール ロックキング オーバーライド機能を使用して、個々の電話機ユーザは、指定の期間に定義されたコール ロックキングをオーバーライドできます。システム管理者はあらかじめ、コール ロックキングのオーバーライドを許可するすべての電話機に Personal Identification Number (PIN) を割り当てる必要があります。

PIN で電話機にログインした場合、ユーザに許可されるのは特定の期間に関連付けられたコール ロックキングのオーバーライドのみです。週 7 日、1 日 24 時間有効なブロックキング パターンがあり、それらを PIN を使用してオーバーライドすることはできません。

コール ロックキング オーバーライド用に設定された PIN の場合、それらは特定の時刻に、または電話機が一定の時間アイドル状態になった後でクリアされます。時刻と時間はシステム管理者が設定することも、デフォルトのままにすることもできます。

設定については、次の項を参照してください。

- 「SCCP : すべての電話機へのコール ブロッキングのオーバーライドの設定」 (P.691)
- 「ダイヤルピアのコール ブロッキング除外の設定」 (P.690)。
- 「SCCP : 個別の電話機へのコール ブロッキング除外の設定」 (P.693)。
- 「SIP : 個別の電話機または電話番号へのコール ブロッキング除外の設定」 (P.694)。

制限クラス

制限クラス (COR) は、ダイヤルピアでプロビジョニングされる着信および発信の制限クラスに基づいて、特定のコールを拒否する機能です。COR は、どの着信ダイヤルピアがどの発信ダイヤルピアを使用してコールを発信できるかを指定します。各ダイヤルピアは、着信および発信 COR リストでプロビジョニングできます。

COR 機能により、ユーザがコール (たとえば、900 番へのコール) をブロックできるようにしたり、各種の発信元からのコールにさまざまな制限を課したりすることで、ネットワーク設計が柔軟になります。

設定については、「SCCP : ディレクトリ番号への制限クラスの適用」 (P.696) を参照してください。

コール ブロッキングの設定方法

ここでは、次の作業について説明します。

- 「コール ブロッキングの設定」 (P.687) (必須)
- 「ダイヤルピアのコール ブロッキング除外の設定」 (P.690) (任意)
- 「SCCP : すべての電話機へのコール ブロッキングのオーバーライドの設定」 (P.691) (任意)
- 「SCCP : 個別の電話機へのコール ブロッキング除外の設定」 (P.693) (任意)
- 「SIP : 個別の電話機または電話番号へのコール ブロッキング除外の設定」 (P.694) (任意)
- 「コール ブロッキング設定の確認」 (P.695) (任意)

制限クラス

- 「SCCP : ディレクトリ番号への制限クラスの適用」 (P.696) (必須)
- 「SIP : ディレクトリ番号への制限クラスの適用」 (P.697) (必須)
- 「制限クラスの確認」 (P.698) (任意)

コール ブロッキングの設定

Cisco Unified CME のすべての SCCP および SIP エンドポイントに対して、一致するパターンへのコールがブロックされるブロッキング パターンと期間を定義する場合、PSTN 回線からのコールをブロックするために照合するブロッキング パターンを定義する場合、および特定の時刻または指定された期間の SCCP 電話機へのログインを非アクティブにする場合は、次の手順を実行します。

前提条件

- ダイヤルピアが、ルータの音声ポートまたは H.323/SIP トランク接続を使用して、PSTN にアクセスできるように設定されていること。

制約事項

- Cisco CME 3.3 よりも前は、H.323 モードで Cisco ATA または FXS ポートに接続されたアナログ電話機でコール ブロッキングがサポートされていません。
- Cisco CME 3.4 よりも前は、Cisco Unified CME に直接接続された SIP IP 電話機でコール ブロッキングがサポートされていません。
- Cisco Unified CME 4.2(1) よりも前は、IP Phone および PSTN トランク回線での選択的コール ブロッキングがサポートされていません。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **telephony-service**
4. **after-hours block pattern tag pattern [7-24]**
5. **after-hours day day start-time stop-time**
6. **after-hours date month date start-time stop-time**
7. **after-hours pstn-prefix tag pattern**
8. **login [timeout [minutes]] [clear time]**
9. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

コマンドまたはアクション	目的
<p>ステップ3 <code>telephony service</code></p> <p>例: Router(config)# telephony service</p>	<p>テレフォニー サービス コンフィギュレーション モードを開始します。</p>
<p>ステップ4 <code>after-hours block pattern pattern-tag pattern [7-24]</code></p> <p>例: Router(config-telephony)# after-hours block pattern 2 91</p>	<p>IP Phone からのコールのブロッキング用に照合するパターンを定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <code>pattern-tag</code> : コール ブロッキング用の一意の番号パターン。別個のコマンドで最大 32 のコール ブロッキング パターンを定義します。範囲は 1 ~ 32 です。 • このコマンドは、<code>ephone-template</code> コンフィギュレーション モードでも設定できます。<code>ephone-template</code> コンフィギュレーション モードで設定された値は、<code>telephony-service</code> モードで設定された値よりも優先されます。
<p>ステップ5 <code>after-hours date month date start-time stop-time</code></p> <p>例: Router(config-telephony)# after-hours date jan 1 0:00 23:59</p>	<p>定義されたブロック パターンに一致する発信コールが IP Phone でブロックされる繰り返し時間を、日付に基づいて定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コールブロッキングの開始時刻と終了時刻を HH:MM 形式の 24 時間制で入力します。<code>stop-time</code> は <code>start-time</code> よりも大きくする必要があります。値 24:00 は無効です。終了時刻に 00:00 と入力すると、23:59 に変更されます。開始時刻と終了時刻の両方に 00:00 を入力した場合、指定した日付の 24 時間全体でコールがブロックされます。 • このコマンドは、<code>ephone-template</code> コンフィギュレーション モードでも設定できます。<code>ephone-template</code> コンフィギュレーション モードで設定された値は、<code>telephony-service</code> モードで設定された値よりも優先されます。
<p>ステップ6 <code>after-hours day day start-time stop-time</code></p> <p>例: Router(config-telephony)# after-hours day sun 0:00 23:59</p>	<p>定義されたブロック パターンに一致する発信コールが IP Phone でブロックされる繰り返し時間を、曜日に基づいて定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コールブロッキングの開始時刻と終了時刻を HH:MM 形式の 24 時間制で入力します。<code>stop-time</code> は <code>start-time</code> よりも大きくする必要があります。値 24:00 は無効です。終了時刻に 00:00 と入力すると、23:59 に変更されます。開始時刻と終了時刻の両方に 00:00 を入力した場合、指定した日の 24 時間全体でコールがブロックされます。 • このコマンドは、<code>ephone-template</code> コンフィギュレーション モードでも設定できます。<code>ephone-template</code> コンフィギュレーション モードで設定された値は、<code>telephony-service</code> モードで設定された値よりも優先されます。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ7	<pre>after-hours pstn-prefix tag pattern</pre> <p>例 : Router(config-telephony)# after-hours pstn_prefix 1 9</p>	<p>トランク ephone-dn でダイヤルされた番号のパターン照合時にスキップするパターンの先頭番号を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <i>tag</i> : PSTN コール ブロッキング用の一意の番号パターン。別個のコマンドで最大 4 つのコール ブロッキング パターンを定義します。範囲は 1 ~ 4 です。 • <i>pattern</i> : 通常はトランク PSTN 回線のダイヤルに使用され、この設定でブロックされる一意の先頭番号を識別します。
ステップ8	<pre>login [timeout [minutes]] [clear time]</pre> <p>例 : Router(config-telephony)# login timeout 120 clear 23:00</p>	<p>特定の時刻に、または指定したアイドル時間が電話機で経過した後ですべてのユーザ ログインを非アクティブにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SCCP 電話機のみ。Cisco Unified CME の SIP エンドポイントではサポートされません。 • <i>minutes</i> : (任意) 範囲 : 1 ~ 1440。デフォルト : 60。Cisco Unified CME 4.1 よりも前は、この引数の最小値が 5 分でした。
ステップ9	<pre>end</pre> <p>例 : Router(config-telephony)# end</p>	<p>特権 EXEC モードに戻ります。</p>

ダイヤルピアのコール ブロッキング除外の設定

H.323 および SIP トランク コールが Cisco Unified CME の after-hours 設定にかかわらず音声ゲートウェイを利用できるようにするには、ここに示す手順を実行します。

手順の概要

1. enable
2. configure terminal
3. dial-peer voice *tag* {pots | voatm | vofr | voip}
4. paramspace callsetup after-hours-exempt true
5. end

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>enable</code> 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	<code>configure terminal</code> 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>dial-peer voice tag {pots voatm voifr voip}</code> 例： Router(config)# dial peer voice 501 voip	特定のダイヤルピアを定義し、音声カプセル化の方法を指定して、ダイヤルピア コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ4	<code>paramspace callsetup after-hours-exempt true</code> 例： Router(config-dialpeer)# paramspace callsetup after-hours-exempt true	ダイヤルピアをコール ブロッキング設定から除外します。
ステップ5	<code>end</code> 例： Router(config-dialpeer)# end または Router(config-register-dn)# end	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

SCCP : すべての電話機へのコール ブロッキングのオーバーライドの設定

すべてのコール ブロッキング ルールをオーバーライドするために電話機ユーザが入力するコール ブロッキング オーバーライド コードを定義するには、次の手順を実行します。

前提条件

- Cisco Unified CME 4.2(1) 以降のバージョン。

制約事項

- コール ブロッキングのオーバーライドは、ソフトキー表示をサポートする電話機でのみサポートされます。
- after-hours オーバーライド コードが night-service コードと同じ場合、after hours コール ブロッキングはディセーブルされます。
- telephony-service に定義されているオーバーライド コードと ephone-template に定義されているオーバーライド コードの両方が、すべての電話機でイネーブルになります。

■ コール ブロッキングの設定方法

- グローバルな telephony-service オーバーライド コードが ephone-template オーバーライド コードと重なり、含む桁数がより多い場合、発信コールは ephone テンプレートが適用された電話機で telephony-service オーバーライド コードが使用されると必ずディセーブルされます。たとえば、telephony-service オーバーライド コードが 6241 で、ephone-template オーバーライド コードが 62 の場合、ephone テンプレートが適用された電話機では、6241 オーバーライド コードがダイヤルされると速いビジー音が鳴ります。

手順の概要

1. enable
2. configure terminal
3. telephony-service
4. after-hours override-code pattern
5. end

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	telephony-service 例： Router(config)# telephony-service	テレフォニー サービス コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ4	after-hours override-code pattern 例： Router(config-telephony)# after-hours override-code 1234	after-hours コール ブロッキング設定をオーバーライドする数字 (0 ~ 9) のパターンを定義します。 • pattern : [ログイン (Login)] ソフトキーを押してからダイヤルすると、after-hours コール ブロッキング設定をオーバーライドできる、一意の数字セットを識別します。 • このコマンドは、ephone-template コンフィギュレーション モードでも設定できます。ephone-template コンフィギュレーション モードで設定された値は、telephony-service モードで設定された値よりも優先されます。
ステップ5	end 例： Router(config-telephony)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

SCCP : 個別の電話機へのコール ブロッキング除外の設定

個別の SCCP 電話機に関連付けられたすべての電話番号をコール ブロッキング設定から除外するには、ここに示す手順を実行します。

制約事項

- コール ブロッキングのオーバーライドは、ソフトキー表示をサポートする電話機でのみサポートされます。

手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `ephone phone-tag`
4. `after-hour exempt`
5. `pin pin-number`
6. `end`

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>enable</code> 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	<code>configure terminal</code> 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>ephone phone-tag</code> 例： Router(config)# ephone 4	ephone コンフィギュレーション モードを開始します。 • <i>phone-tag</i> : コール ブロッキングから除外する電話機の一意的シーケンス番号。
ステップ4	<code>after-hour exempt</code> 例： Router(config-ephone)# after-hour exempt	この電話機がコール ブロッキングから除外されることを指定します。この方法で除外された電話機は、どのコール ブロッキング パターンによる制限も受けず、電話機ユーザの認証は必要ありません。
ステップ5	<code>pin pin-number</code> 例： Router(config-ephone)# pin 5555	ephone へのログインに使用される Personal Identification Number (PIN) を宣言します。 • <i>pin-number</i> : 長さが 4 ~ 8 桁の番号。
ステップ6	<code>end</code> 例： Router(config-ephone)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

SIP : 個別の電話機または電話番号へのコール ブロッキング除外の設定

個別の SIP 電話機または個別の電話番号に関連付けられたすべての内線をコール ブロッキング設定から除外するには、ここに示す手順を実行します。

制約事項

- ログイン トール バー オーバーライドは SIP IP 電話機ではサポートされません。Cisco Unified CME に接続され SIP を実行中の IP Phone でブロッキングをバイパスする PIN はありません。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice register pool *pool-tag***
または
voice register dn *dn-tag*
4. **after-hour exempt**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>enable</code> 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	<code>configure terminal</code> 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>voice register pool pool-tag</code> または <code>voice register dn dn-tag</code> 例： Router(config)# voice register pool 1 または Router(config)# voice register dn 1	音声レジスタ プール コンフィギュレーション モードを開始して、指定した SIP 電話機にパラメータを設定します。 または <code>voice register dn</code> モードを開始して、SIP 電話機のディレクトリ番号、インターコム回線、音声ポート、または MWI を定義します。
ステップ4	<code>after-hour exempt</code> 例： Router(config-register-pool)# after-hour exempt または Router(config-register-dn)# after-hour exempt	SIP 電話機のすべての番号をコール ブロッキングから除外します。 または 個別のディレクトリ番号をコール ブロッキングから除外します。
ステップ5	<code>end</code> 例： Router(config-register-pool)# end または Router(config-register-dn)# end	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

コール ブロッキング設定の確認

ステップ 1 `show running-config` コマンドを使用して、コール ブロッキングの番号パターンと期間、およびコール ブロッキングから除外としてマークされた電話機を含む、設定全体を表示します。

```
telephony-service
fxo hook-flash
load 7960-7940 P00305000600
load 7914 S00103020002
max-ephones 100
max-dn 500
ip source-address 10.115.43.121 port 2000
timeouts ringing 10
voicemail 7189
max-conferences 8 gain -6
moh music-on-hold.au
web admin system name sys3 password sys3
```

```

dn-webedit
time-webedit
transfer-system full-consult
transfer-pattern .T
secondary-dialtone 9
after-hours block pattern 1 91900 7-24
after-hours block pattern 2 9976 7-24
after-hours block pattern 3 9011 7-24
after-hours block pattern 4 91...976.... 7-24
!
create cnf-files version-stamp 7960 Jul 13 2004 03:39:28

```

ステップ 2 **show ephone login** コマンドを使用して、すべての電話機のログイン ステータスを表示します。

```

Router# show ephone login

ephone 1          Pin enabled:TRUE          Logged-in:FALSE
ephone 2          Pin enabled:FALSE
ephone 3          Pin enabled:FALSE

```

ステップ 3 **show voice register dial-peer** コマンドでは、登録されている SIP 電話機によって動的に作成されたすべてのダイヤルピアが、after hours ブロッキングの設定とともに表示されます。

SCCP : ディレクトリ番号への制限クラスの適用

ディレクトリ番号に制限クラスを適用するには、次の手順を実行します。

前提条件

- ダイヤルピアに COR リストが作成されていること。詳細については、[Cisco IOS Voice Configuration Library](#) にある『[Dial Peer Configuration on Voice Gateway Routers](#)』マニュアルの「[Class of Restrictions](#)」の項を参照してください。
- COR の適用先のディレクトリ番号が、Cisco Unified CME で設定されていること。設定情報については、「[SCCP : ディレクトリ番号の作成](#)」(P.228) を参照してください。

手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-dn dn-tag**
4. **corlist {incoming | outgoing} cor-list-name**
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	<code>enable</code> 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 <ul style="list-style-type: none"> プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	<code>configure terminal</code> 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	<code>ephone-dn dn-tag</code> 例： Router(config)# ephone-dn 12	ephone-dn コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ4	<code>corlist {incoming outgoing} cor-list-name</code> 例： Router(config-ephone-dn)# corlist outgoing localcor	ephone-dn に関連付けられたダイヤルピアに COR を設定します。
ステップ5	<code>end</code> 例： Router(config-ephone-dn)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

SIP : ディレクトリ番号への制限クラスの適用

Cisco Unified CME に接続された SIP IP Phone に関連付けられたディレクトリ番号の仮想ダイヤルピアに制限クラスを適用するには、次の手順を実行します。

前提条件

- Cisco Unified CME 3.4 以降のバージョン。
- ダイヤルピアに COR リストが作成されていること。詳細については、[Cisco IOS Voice Configuration Library](#) にある『[Dial Peer Configuration on Voice Gateway Routers](#)』マニュアルの「[Class of Restrictions](#)」の項を参照してください。
- COR の適用先の各電話機が、Cisco Unified CME で設定されていること。設定情報については、「[SIP : ディレクトリ番号の作成](#)」(P.238) を参照してください。

手順の概要

1. `enable`
2. `configure terminal`
3. `voice register pool pool-tag`

4. **cor** {**incoming** | **outgoing**} *cor-list-name* {*cor-list-number starting-number* [- *ending-number*] | **default**}
5. **end**

手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ1	enable 例： Router> enable	特権 EXEC モードをイネーブルにします。 • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ2	configure terminal 例： Router# configure terminal	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ3	voice register pool <i>pool-tag</i> 例： Router(config)# voice register pool 3	Cisco Unified CME で、音声レジスタ プール コンフィギュレーション モードを開始して、SIP 電話機に電話機固有のパラメータを設定します。
ステップ4	cor { incoming outgoing } <i>cor-list-name</i> { <i>cor-list-number starting-number</i> [- <i>ending-number</i>] default }	ディレクトリ番号に関連付けられ、動的に作成された VoIP ダイアルピアに制限クラス (COR) を設定し、いずれの着信ダイアルピアがいずれの発信ダイアルピアを使用して発信できるかを指定します。 • 各ダイアルピアは、着信および発信 COR リストでプロビジョニングできます。
ステップ5	end 例： Router(config-register-pool)# end	コンフィギュレーション モードを終了して、特権 EXEC モードを開始します。

制限クラスの確認

- ステップ 1** **show running-config** コマンドまたは **show telephony-service ephone-dn** コマンドを使用して、COR リストが適切な ephone-dn に適用されているかどうかを確認します。

```
Router# show running-config

ephone-dn 23
  number 2835
  corlist outgoing 5x
```

- ステップ 2** **show dialplan dialpeer** コマンドを使用して、どの発信ダイアルピアが着信コールと一致するかを、COR 基準およびコマンドラインで指定するダイアル番号に基づいて確認します。 **timeout** キーワードを使用して、ダイアルピアに関連付けられた可変長の宛先パターンの照合をイネーブルにします。これによって、指定するダイアルピア番号との一致が見つかる可能性を高められます。

```
Router# show dialplan dialpeer 300 number 1900111
```

```
VoiceOverIpPeer900
  information type = voice,
  description = '',
  tag = 900, destination-pattern = `1900',
  answer-address = '', preference=0,
  numbering Type = `unknown'
  group = 900, Admin state is up, Operation state is up,
  incoming called-number = '', connections/maximum = 0/unlimited,
  DTMF Relay = disabled,
  modem passthrough = system,
  huntstop = disabled,
  in bound application associated: 'DEFAULT'
  out bound application associated: ''
  dnis-map =
  permission :both
  incoming COR list:maximum capability
  outgoing COR list:to900
  type = voip, session-target = `ipv4:1.8.50.7',
  technology prefix:
  settle-call = disabled
  ...
  Time elapsed since last clearing of voice call statistics never
  Connect Time = 0, Charged Units = 0,
  Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
  Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
  Last Disconnect Cause is "",
  Last Disconnect Text is "",
  Last Setup Time = 0.
Matched: 19001111  Digits: 4
Target: ipv4:1.8.50.7
```

ステップ 3 **show dial-peer voice** コマンドを使用して、特定のダイヤルピアに関連付けられた属性を表示します。

Router# **show dial-peer voice 100**

```
VoiceEncapPeer100
  information type = voice,
  description = '',
  tag = 100, destination-pattern = '',
  answer-address = '', preference=0,
  numbering Type = `unknown'
  group = 100, Admin state is up, Operation state is up,
  Outbound state is up,
  incoming called-number = `555....', connections/maximum = 0/unlimited,
  DTMF Relay = disabled,
  huntstop = disabled,
  in bound application associated: 'vxml_inb_app'
  out bound application associated: ''
  dnis-map =
  permission :both
  incoming COR list:maximum capability
  outgoing COR list:minimum requirement
  type = pots, prefix = '',
  forward-digits default
  session-target = '', voice-port = '',
  direct-inward-dial = disabled,
  digit_strip = enabled,
  register E.164 number with GK = TRUE

  Connect Time = 0, Charged Units = 0,
  Successful Calls = 0, Failed Calls = 0, Incomplete Calls = 0
  Accepted Calls = 0, Refused Calls = 0,
  Last Disconnect Cause is "",
  Last Disconnect Text is "",
```

```
Last Setup Time = 0.
```

コール ブロッキングの設定例

この項では、次の例について説明します。

- 「コール ブロッキング : 例」 (P.700)
- 「制限クラス : 例」 (P.701)

コール ブロッキング : 例

次の例では、発信コールがブロックされる番号パターンをいくつか定義します。パターン 1 および 2 は、「1」 および「011」で始まる外部番号へのコールをブロックします。このブロックは、月曜から金曜の午前 7 時以前と午後 7 時以後、土曜の午前 7 時以前と午後 1 以後、日曜 (1 日中) に行われます。パターン 3 は、900 番へのコールを週 7 日、1 日 24 時間にわたってブロックします。タグ番号 23 および MAC アドレス 00e0.8646.9242 の IP Phone は、ブロックされるどのパターンのコールからも制限を受けません。

```
telephony-service
  after-hours block pattern 1 91
  after-hours block pattern 2 9011
  after-hours block pattern 3 91900 7-24
  after-hours day mon 19:00 07:00
  after-hours day tue 19:00 07:00
  after-hours day wed 19:00 07:00
  after-hours day thu 19:00 07:00
  after-hours day fri 19:00 07:00
  after-hours day sat 13:00 12:00
  after-hours day sun 12:00 07:00
!
ephone 23
  mac 00e0.8646.9242
  button 1:33
  after-hour exempt
!
ephone 24
  mac 2234.1543.6352
  button 1:34
```

The following example deactivates a phone's login after three hours of idle time and clears all logins at 10 p.m.:

```
ephone 1
  pin 1000
!
telephony-service
  login timeout 180 clear 2200
```


制限クラス : 例

次の例は、市内宛先、長距離、および 911 にダイヤルするための 3 つのダイヤルピアを示しています。COR リストの `user1` は、911 および市内宛先へのコールに使用されるダイヤルピアにアクセスできません。COR リストの `user2` は、3 つすべてのダイヤルピアにアクセスできます。`ephone-dn 1` は市内宛先および 911 へのコール用として、COR リストの `user1` に関連付けられ、`ephone-dn 2` は 911、市内宛先、および長距離へのコール用として、COR リストの `user2` に関連付けられます。

```
dial-peer cor custom
  name local
  name longdistance
  name 911
!
dial-peer cor list call-local
  member local
!
dial-peer cor list call-longdistance
  member longdistance
!
dial-peer cor list call-911
  member 911
!
dial-peer cor list user1
  member 911
  member local
!
dial-peer cor list user2
  member 911
  member local
  member longdistance
!
dial-peer voice 1 pots
  corlist outgoing call-longdistance
  destination-pattern 91.....
  port 2/0/0
  prefix 1
!
dial-peer voice 2 pots
  corlist outgoing call-local
  destination-pattern 9[2-9].....
  port 2/0/0
  forward-digits 7
!
dial-peer voice 3 pots
  corlist outgoing call-911
  destination-pattern 9911
  port 2/0/0
  prefix 911
!
ephone-dn 1
  corlist incoming user1
  corlist outgoing user1
!
ephone-dn 2
  corlist incoming user2
  corlist outgoing user2
```

次の作業

Cisco Unified CME に接続された Cisco Unified IP Phone の設定を変更した後は、電話機をリブートして変更内容を有効にする必要があります。詳細については、「[電話機のリセットと再起動](#) (P.367) を参照してください。

ソフトキー制御

1 台以上の電話機で [ログイン (Login)] ソフトキーを移動または削除するには、適切な **softkeys** コマンドを含む **ephone** テンプレートを作成して適用します。

詳細については、「[ソフトキーのカスタマイズ](#)」 (P.1347) を参照してください。

ephone-dn テンプレート

corlist コマンドは、1 つ以上の **ephone-dn** に適用される **ephone-dn** テンプレートに含めることができます。詳細については、「[テンプレートの作成](#)」 (P.1533) を参照してください。

その他の参考資料

次の各項では、Cisco Unified CME 機能に関連するその他の資料について説明します。

関連資料

関連項目	参照先
Cisco Unified CME の設定	<ul style="list-style-type: none"> 『Cisco Unified CME Command Reference』 『Cisco Unified CME Documentation Roadmap』
Cisco IOS コマンド	<ul style="list-style-type: none"> 『Cisco IOS Voice Command Reference』 『Cisco IOS Software Releases 12.4T Command References』
Cisco IOS の設定	<ul style="list-style-type: none"> 『Cisco IOS Voice Configuration Library』 『Cisco IOS Software Releases 12.4T Configuration Guides』
Cisco Unified CME 用の電話機のマニュアル	<ul style="list-style-type: none"> 『User Documentation for Cisco Unified IP Phones』

シスコのテクニカル サポート

説明	リンク
<p>右の URL にアクセスして、シスコのテクニカル サポートを最大限に活用してください。</p> <p>以下を含むさまざまな作業にこの Web サイトが役立ちます。</p> <ul style="list-style-type: none">・テクニカル サポートを受ける・ソフトウェアをダウンロードする・セキュリティの脆弱性を報告する、またはシスコ製品のセキュリティ問題に対する支援を受ける・ツールおよびリソースへアクセスする<ul style="list-style-type: none">- Product Alert の受信登録- Field Notice の受信登録- Bug Toolkit を使用した既知の問題の検索・Networking Professionals (NetPro) コミュニティで、技術関連のディスカッションに参加する・トレーニング リソースへアクセスする・TAC Case Collection ツールを使用して、ハードウェアや設定、パフォーマンスに関する一般的な問題をインタラクティブに特定および解決する <p>この Web サイト上のツールにアクセスする際は、Cisco.com のログイン ID およびパスワードが必要です。</p>	<p>http://www.cisco.com/en/US/support/index.html</p>

コール ブロッキングの機能情報

表 54 に、このモジュールで説明した機能、およびバージョンごとの拡張機能を示します。

特定の Cisco Unified CME バージョンをサポートするための適切な Cisco IOS リリースを判断するには、http://www.cisco.com/en/US/docs/voice_ip_comm/cucme/requirements/guide/33matrix.htm にある『Cisco Unified CME and Cisco IOS Software Version Compatibility Matrix』を参照してください。

プラットフォームのサポートおよびソフトウェア イメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator では、特定のソフトウェア リリース、フィーチャ セット、またはプラットフォームをサポートしている Cisco IOS ソフトウェア イメージを確認できます。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、<http://www.cisco.com/go/cfn> に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。



(注) 表 54 には、特定の機能に対するサポートを導入した Cisco Unified CME のバージョンが示されています。特に明記されていない限り、Cisco Unified CME ソフトウェアの後続のバージョンでもこの機能をサポートします。

表 54 コール ブロッキングの機能情報

機能名	Cisco Unified CME バージョン	機能情報
コール ブロッキング	4.2(1)	IP Phone および PSTN トランク回線で、選択的コール ブロッキングのサポートが追加されました。
	3.4	<ul style="list-style-type: none"> • Cisco Unified CME に直接接続された SIP IP Phone で、コール ブロッキングのサポートが導入されました。 • 除外された電話機からのコールを除いて、ルータへのすべての着信コールも after-hours 設定と照合されます。
	3.3	H.323 モードで Cisco ATA または FXS ポートに接続されたアナログ電話機で、コール ブロッキングのサポートが追加されました。
	3.0	<ul style="list-style-type: none"> • 日付と時刻に基づくコール ブロッキングが導入されました。 • コール ブロッキングのオーバーライドが導入されました。
制限クラス	3.4	Cisco Unified CME に直接接続された SIP IP Phone で、COR のサポートが追加されました。
	2.0	制限クラスが導入されました。